令和５年度「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」における生魂小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和５年４月から令和５年７月末までの期間に、５年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

１　調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

（１）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み，国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより，子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。

（２）各教育委員会，各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（３）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣，生活習慣，食習慣等を把握し，学校における体育･健康等に関する指導などの改善に役立てる。

２　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第５学年、義務教育学校前期課程第５学年、特別支援学校小学部第５学年の原則として全児童

・大阪市立生魂小学校では、５年生　３５名

３　調査内容

・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）

小学校調査では、以下の種目を実施する。

［８種目］ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する。

令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立生魂小　　学校	児童数	35

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
男子	17.29	19.95	33.77	41.55	45.50	9.44	155.14	21.86	54.43
大阪市	15.97	18.72	32.66	38.27	45.10	9.50	147.92	20.35	51.13
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
女子	15.75	16.92	32.83	35.58	37.42	9.82	141.58	13.83	51.75
大阪市	15.88	17.85	37.44	36.49	34.75	9.74	140.20	12.69	52.67
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28

結果の概要

男子は、8種目中、６種目で全国平均を上回り、体力合計点も全国平均より、1.8ポイント高い結果となった。一方、女子は２種目のみ全国平均を上回り、体力合計点も全国平均より2.6ポイント低い結果となった。

また、児童質問紙より「運動やスポーツをすることは好きですか」の最も肯定的な回答をする児童の割合は、全国平均より、男子は５％高く、女子は１６％低くく回答しており、男子の体力、運動能力の高さは、運動に好感をもっていることが大きく関係している。１週間の総運動時間が６０分未満の児童の割合は、男子９％、女子15.4％と全国平均とほとんど差がなく、運動習慣には大きな課題がみられない。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

令和２年度から昨年度まで３年間、体育科を研究教科として多くの授業実践に取組んできた結果、運動や体育の授業を積極的に取組む児童が増加してきた。しかしながら、昨年度までの３年間に及ぶコロナ禍の影響で運動する機会が減少したり、運動習慣の定着に課題がみられたため、今年度より、２時間目と３時間目の間の休憩時間を５分間延長し、運動場で遊べる時間を確保した。また、放課後の校庭開放も再開し、安全・安心してボール遊び等ができる環境を提供し、下校時刻まで、１時間以上過ごせるようにした。特に、本調査の該当学年である５年生は、放課後に運動場で多くの児童が汗をかきながら、ドッジボールやバスケットボール等の球技を中心に活動している様子がみられる。コロナ禍で失われた運動する機会を回復しつつあるように思える。

今後も男女ともに運動の習慣化がさらに定着し、体力・運動能力の向上に向けて、運動の機会、安全・安心な環境の提供を促進していく。